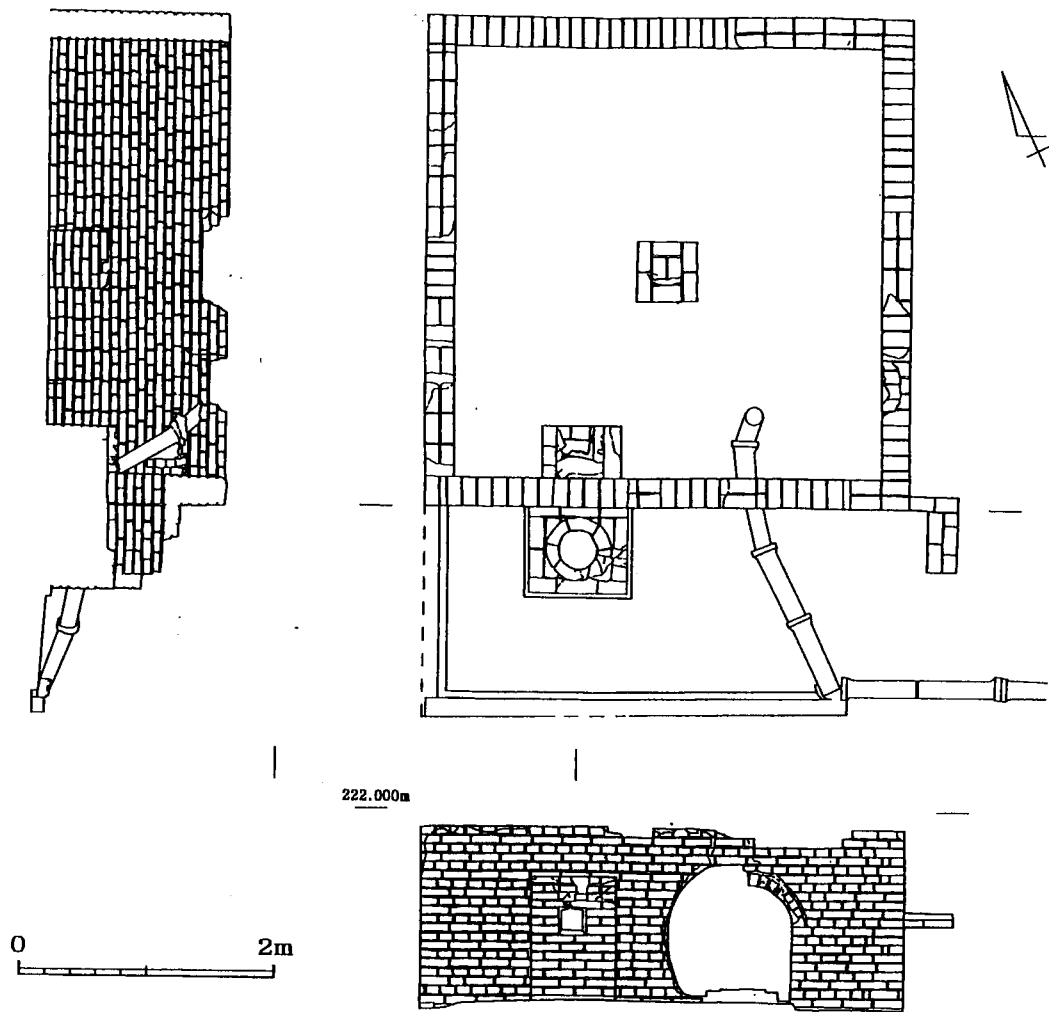
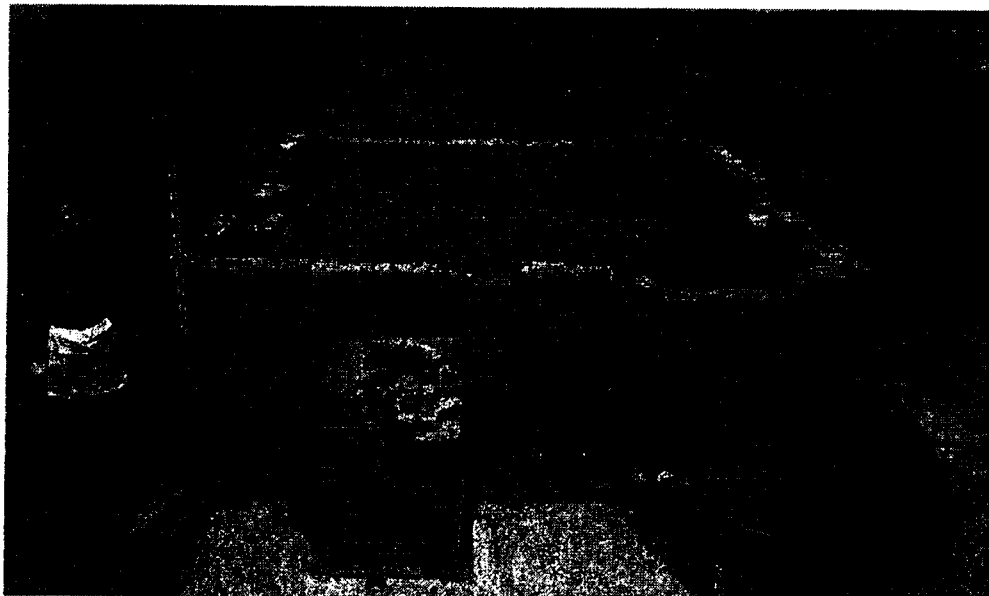


御建遺跡発掘調査一般公開資料



レンガ遺構実測図 (1 : 60)



平成 21(2009)年 10 月 16・17 日(金・土)

財団法人東広島市教育文化振興事業団
東 広 島 市 教 育 委 員 会

御建遺跡について

御建遺跡は、西条町西条に所在する中世から近代にかけての複合遺跡です。西条駅北広場造成事業に伴う埋蔵文化財調査の一環として、7月から11月までの予定で発掘調査を行っています。

当遺跡は、JR西条駅の北10mに位置し、線路を挟んで南には四日市遺跡、東方約500mには史跡安芸国分寺が所在しています。

調査地点は2ヶ所に分かれており、第一期調査範囲と第二期調査範囲に分け、第一期をA区とB区、第二期をC区として調査を実施しています。

見つかった遺構

A区

宅地の造成によって破壊を受けており、遺構のほとんどが現代のものです。区域南側の包含層で中世の遺物が検出されていますが、遺構に伴って検出されたものではないため、遺跡の詳細は不明です。

B区

A区同様宅地の造成を受けていますが、遺構の保存状態は良く、中世の井戸跡や、溝状遺構、近世の掘立柱建物跡、それに付属する溝状遺構、近代のレンガ遺構などが見つかっています。

遺構面は北側では1面ですが、南側では近世の面とそれ以前の生活面の2面ありました。

井戸・・・調査区中央南寄りに位置する井戸です。B区では井戸が3基検出されましたが、その中でも最大・最古のもので、上端の直径が2～2.5m、深さが3m以上あります。遺物は中世の土鍋・瓦・青磁・白磁・木器などが出土しており、16世紀中期くらいに埋められたと推測されます。

掘立柱建物跡・・・調査区北から中央南よりへ並ぶ掘立柱建物跡で、時期は17世紀の初めと考えられます。柱の根本の残る柱穴が多数検出されています。

溝状遺構1・・・調査区を東西に横断する溝状遺構です。上記の井戸と切り合い関係にあり、井戸よりは新しく、掘立柱建物跡よりは古い遺構で16世紀末期の遺構と考えられます。

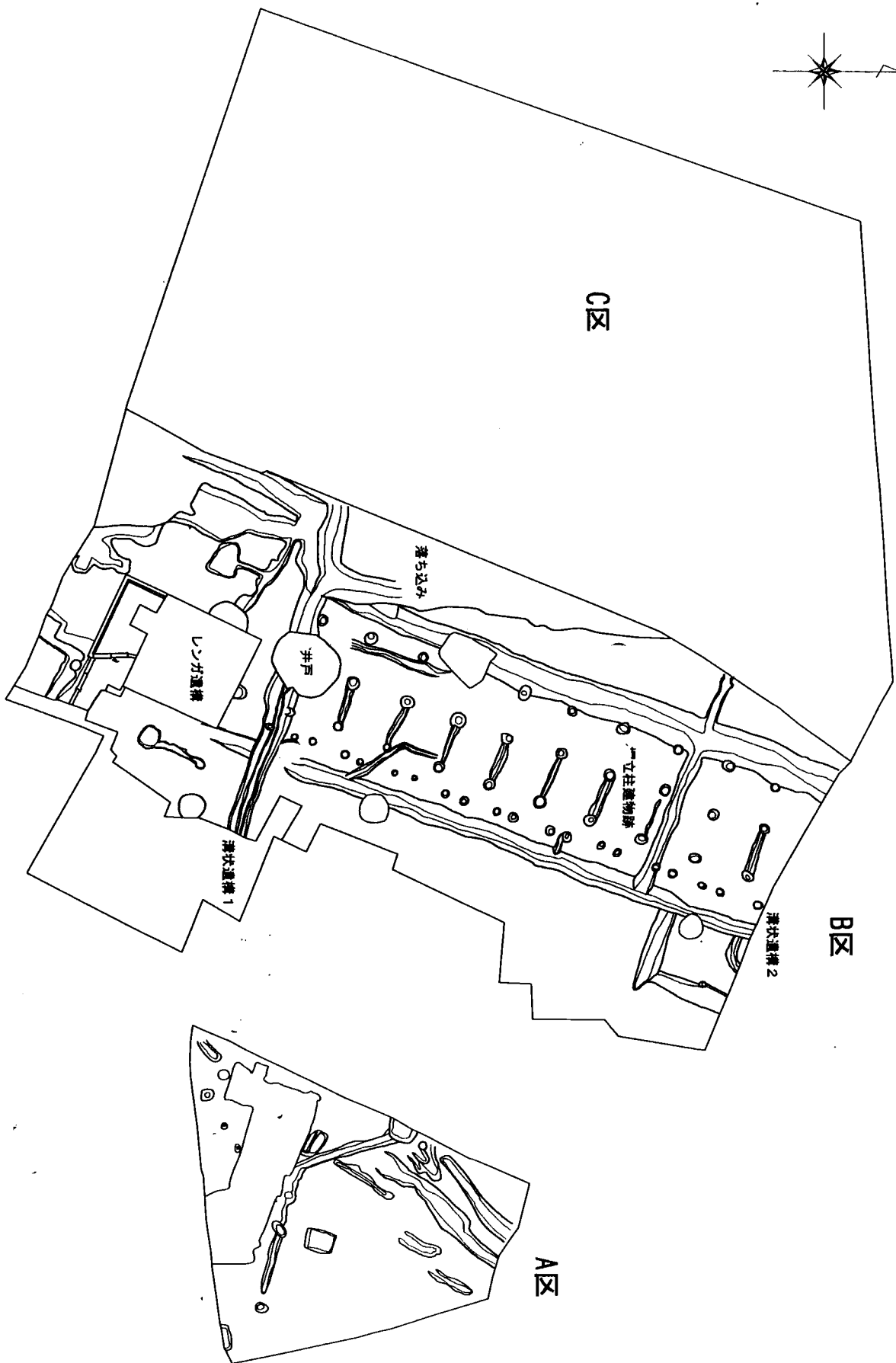
溝状遺構2・・・掘立柱建物跡に付属する溝状遺構で、区画溝と思われます。

レンガ遺構・・・調査区南側に位置する近代のレンガ遺構です。焚口・煙突跡や排水用の土管が確認されています。性格としては醸造関係の施設で竈跡と考えられます。その役割を終え、別の施設として使用するにあたり、排水用の土管を増設したと推測されます。

西側の落ち込み・・・調査区西側に位置する落ち込みです。B区とC区にまたがる遺構で、全容はまだ明らかになっていませんが、側溝と思われる溝が確認されているため、堀ではなく道路状遺構と思われます。

C区

現在調査中の区域で、詳細は今後の調査待ちですが、B区で検出されたものと同時期と思われる柱の根本の残る柱穴や、区画用と思われる溝が確認されています。B区と同様、調査面が2面あるのが確認されています。



御建遺跡遺構配置図 (1 : 150)